

令和2年度 周南市男女共同参画審議会(意見のまとめ)

1 審議会期間 令和2年11月24日(火)～12月7日(月)

2 参加委員

| | | | | | |
|-------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 委員 (15名) | 井出野会長 船井委員 石田委員 | 近間副会長 米田委員 丸山委員 | 柏倉委員 三浦委員 徳原委員 | 野村委員 平野委員 三浦委員 | 石田委員 梅田委員 岩田委員 |
|-------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|

3 事務局説明 (1) 令和元年度推進状況及び施策の実施状況について
(2) 令和2年度の取組状況について
(3) 今後の推進施策について
(4) その他

4 議 題

(1) 令和元年度推進状況及び施策の実施状況に対するご意見・感想について

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>講演会等の参加者数が多く、特にセミナーについては市民の関心も高いと思うので、今後も積極的に実施したほうがいい。</p> <p>参加人数だけではなく、すでにされているかもしれないが、性別や年代の分析も必要ではないか？</p> |
| 委員 | <p>P3の表は、「令和元年度」とあるので元年度の実績とみてしまうが、実際は6項目中5項目が平成30年度のデータというのはいかかなものか。斜字で示してある意味は理解できるが、例外が多い表はあまり見たことがない。提案として、過去からの推移が見えるP54のデータをそのまま各ページに載せる方がよいのではないか。</p> |
| 委員 | <p>目標値の定め方が不明だが、指標によっては甘いものもあり、さらなる前進に向けて”目標”となる数値にするとよい。</p> |
| 委員 | <p>参画推進の現状において、平成25年度に比べ、令和元年度は大多数の項目において達成度が増加していることはたいへんよい。ただ、各家庭や職場の環境によっては、まだまだ改善されていないところも多々あるので、さらなる一人ひとりの意識づくりと置かれた環境の意識づくりの推進をお願いしたい。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>各関係部署や機関が男女共同参画に向け積極的に推進しているのはわかる。</p> <p>実施回数や参加人数の記載は状況が把握しやすい。</p> <p>事業内容にもよるだろうが、課題を記すことは難しいだろうか。</p> |
| 委員 | <p>推進状況、実施状況がよくわかった。</p> |
| 委員 | <p>一人ひとりの多様な個性や能力を尊重していこうと思うと、いろいろな考えが出てすぐには決められないことが多い、これからも意識づくり・人づくり、またPR活動が必要。</p> |
| 委員 | <p>令和元年度の評価が「B」で今後「A 積極的に推進」という項目がかなり少ない中で、職員研修や人事管理事業が該当しているのは、まず行政から積極的に取り組むという意気込みなのか、期待する。</p> |
| 委員 | <p>P20（ウ）の下から2段目の「417件351件」は30年度の351件の消し忘れか。チェックは。</p> <p>令和元年度の目標値と現状値が一目でわかり、実態が理解できた。</p> |
| 委員 | <p>基本目標に沿って、事業の実施状況の評価がわかりやすい。今後の取組みについてランクをつけて示されていることは取組みに対する意欲がよく理解できる。</p> |
| 委員 | <p>目標指数に対する達成度を見ると、基本目標に向かって推進することをこれからもあらゆる場面、あらゆる世代に研修していく必要があると感じる。</p> |

（2）令和2年度の取組状況についてのご意見

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>コロナ禍の中、諸活動を継続的に実施してきた点を評価する。「男女共同参画に向けた意識づくり・人づくり」に対する、子供から高齢者までの（啓蒙）教育の効果を期待する。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍にも関わらず、セミナーやデートDV講座についてはよく活動されている。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>コロナ禍の中、よく取り組まれている。ただし、行政として新規に打ち出したり、重点として取り組んだことをもっと明確に示すべきではないか。そうでないと評価がぼやけるのではないか。</p> |
| 委員 | <p>セミナー等実施する中でアンケートを取っているのであれば、差し支えない部分でもいいので、結果を会議で公表してほしい。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍で”人”が集まりにくく活動が難しい中、目標に向けて活動できている。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍となった状況での各種取組みは、予定を大幅に変更する等、たいへんだったと思う。市民や各企業も感染拡大防止のため参加見送り等の対応がされ、周知を含め困難な状況下になったのではと思う。そうした中で、これまで推進してきたことが今後逆行していかないかどうか懸念される。是非とも、様々なツールを利用し、推進の継続をお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>すまいるプラン周南の後期初年度であることから、ある意味方向性を示すものであると思う。基本目標も6つから3つに集約されたこともあり、実施する事業（内容）が、基本計画における現状と課題、そのための具体的施策（事業）となっているかの照らし合わせをしていく必要があると思う。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍でセミナーなどへの参加が難しかった。様々な制約がある中、講演会や支援をされていて素晴らしいと思った。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍でセミナー等の開催が難しくなっているが、PR活動はしっかりやってほしい。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍では、いろいろなことが中止・延期となったが、状況を見据えながら、進めていくしか仕方ないのではないか。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハートフル人権セミナーは意識改革にとってもよい講座。市民全員が1回は受講してほしい。 ・デートDV講座は今後もぜひ中・高校生対象にしてほしい。今の時代でも意外とジェンダーが刷り込まれている若い世代が多い。 |

| | |
|----|--|
| 委員 | 今年度は例年と異なる状況・環境であったため、取組みもたいへんだったと思うが、その中でも十分に活動されている。 |
| 委員 | 行政の支援、市広報で周知啓発に向けての取組みをお願いしたい。 |

(3) 今後の男女共同参画推進施策についてのご意見

| | |
|----|---|
| 委員 | 男女共同参画は、今後の社会においてもっとも重要な課題と考えられる。行政機関での雇用などを筆頭に、官民一体となってこれからも持続的に取り組んでいく必要がある。 |
| 委員 | 県内の他の自治体がどのような取組みをしているのか、あるいは、成功している事例について、今後調査することはできないか？ |
| 委員 | <p>日本は先進国の中でも男女共同参画においては依然ワースト1の状態が継続していて完全にガラパゴス化している。推進の必要性は増すばかりであり、周南市にも今後とも頑張っていただきたいと思う。</p> <p>(1)男女共同参画推進施策のあり方</p> <p>関係する項目が多種多様で各部署すべてがあてはまる性格上、施策的に難しく総花的であるほど課題が見えにくいと思う。課題を明確にしていくつかの項目を短期間で重点的に改善していくような施策を打っていくべきではないか。該当部署にプレッシャーをかけ、目玉となる取組みを提案・実施させる強引さが必要ではないか。お人よしではいけない時期にきており、今の延長には変化は起きないのではないか。</p> <p>(2)審議会について</p> <p>開催の意味を今一度確認を。まず一番に市民の意見を行政に反映させるためだと思う。今回の審議会意見をどうやって令和3年度の施策・予算に反映させるのか。12月では遅すぎる。意見が反映されたとしても確実に2年越しになる。報告書も夏までに発行し、審議会を開くべき。以前にも意見したが、変わっておらず、悲しい思いがする。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>現在、男女共同参画として本会議は行われているが、近年世界的にLGBTの問題があり、日本も例外ではない。市でも、セミナー等でLGBTについての周知をされているが、今後会議の中でも男女に限らないLGBTを意識した会議を行っていくのだろうか。</p> |
| 委員 | <p>10月21日の(徳山大学会場)周南市男女共同参画セミナー(「オトコ目線の男女共同参画」)はたいへん参考になった。男女共同参画社会実現のための課題はまさにここにあるとさえ感じた。女性に目を向けることも大事であるが、視点を男性に向けると見えなかったものが見えてくる。視点を変えた講演、協議や研修は男女共同参画という意識をより一層高めるのではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>男女共同参画というのは多岐に渡るということに驚きつつ、自身の経験だけでは測り知れない事柄について講演会やセミナー等で理解を深める必要性を強く感じている。</p> |
| 委員 | <p>【講演会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象を市民と企業、大学生ではなく、市民のみで実施してほしい。 ・内容も意識改革の方法をいろいろ試みてほしい。(例：ワールドカフェやシンポジウムなどの開催。受講者と意見交換。DVD視聴後にグループ協議など) ・講師も全国的に有名な方ではなく、県内の身近な人でわかりやすく楽しく受講できる方を望む。例：今村孝子先生(医師・元初の県の女性部長)はとてもわかりやすい。 |
| 委員 | <p>児童虐待やDVに対する連携体制はより充実させていただきたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>今後も今までどおり実施してほしい。</p> |
| 委員 | <p>行政の支援、市広報で周知啓発の取組みを次年度もお願いしたい。若い世代から継続して実施していただきたいと思う。</p> |

(4) その他ご意見

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>啓発活動を盛んにされていることは、大変望ましいが、その効果についても今後は評価を試みていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>女性の就業にあたり、子育て支援等充実してきていると思う。若い人は教育の成果もあり、徐々に意識が変わってきているが、年齢が上がるに連れ、男女共同参画に沿わない意識行動がみられる。成果を上げるには、高い年齢層から意識を改革できるよう職場や家庭に展開していけるとよい。</p> |
| 委員 | <p>男女共同参画でよく言われるジェンダーギャップ指数は、一概に断定的には言えないが他国が解消を進めている中、日本はますますランクが下がっていくことになる。「政治」「経済」で指数を下げている現実で、リモートワークの導入は、女性の活躍にも繋がるのではと思う。時勢に添った話題や投げかけが求められるのではなかろうか。</p> |
| 委員 | <p>何もかもやろうとしたら、結局何もできなくなる。この中で、ここは考えてみたいと思うところを見つけるには、PR活動・人づくりが必要。</p> |
| 委員 | <p>会議に参加するまでは「デートDV」という言葉の存在すら知らなかったので、高等学校や専門学校等での講座の開催や、さらに小・中学校での人権教育の推進はとても大事なことだと思う。</p> |
| 委員 | <p>市民は「男女共同参画」という言葉を意識して生活していない。親や家族間の日常の会話や行動の中でジェンダーが刷り込まれて育つ。「女のくせに…」「男は…」というガチガチの意識を変えるのは、50年たっても難しい。一人ひとりの意識改革は、社会全体でメディアの力を借りて少しずつ変えていくしかないのかと思う。20～50代の若い世代でもかなり刷り込まれている。高齢者は変わりようがないが、せめて、小・中学生の頃から啓発し、話し合うことが大事である。誰もが自分らしく生きていける社会をめざして、私たちの団体も身近なところから声を出していけるようアンテナを高く掲げ、活動していきたい。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍で活動が思うようにできないため、早く終息することを願う。</p> |

(5) まとめ

会長

委員の皆様にはたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。
今回の審議会の意見をまとめると、

令和元年度施策の推進については、多くの目標指標で改善が認められる一方、意識づくりについては大きな改善はみられていない。これからもセミナーの実施などを含め、さらなる意識づくりを推進していく必要がある。また、提示された「すまいるプラン周南」の推進状況及び実施状況について、分析の追加、表の見やすさ、目標の具体的な数値化の必要性など改善の余地がある。

令和2年度の取組み状況については、コロナ禍の中、諸施策を継続的に推進してきた点は評価できる。また、セミナーなどへの参加が困難な状況下で、様々なツールを用いて、さらなる情報発信やPR活動の必要性、そしてハートフル人権セミナーやデートDV防止講座などの活性化が必要である。

今後の施策の推進については、男女共同参画はこれからの社会においてとても重要な課題であることは、委員共通の認識である。そのため、より積極的な施策を行っていく必要がある。具体的には、他の自治体の活動とその成功事例の調査、短期間で重点的に改善するポイントの設定、審議会の積極的な活用、DV・児童虐待への連携体制の充実などである。また、LGBTQなどの新たな課題についても今後の正しい知識の普及や啓発事業の取組みの必要があるのではないかとといった問題提起がなされた。

以上を踏まえ、市には、今後の男女共同参画施策の推進に生かしていただくよう以下のとおり審議会の意見とします。

1 施策の推進について

社会における男女共同参画をはじめとする多様性の受容は、たいへん大きな課題であることは衆目の一致するところである。特に意識づくりについては、時間がかかる課題であることは承知しているので、これからも持続的かつ効果的な施策推進に取り組まれない。

女性活躍の推進として、関係機関の連携強化を図り、官民一体となって、雇用施策をはじめとする事業に継続して取り組まれない。

2 啓発事業について

新型コロナウイルスの流行により様々な行動の制約があるが、今後もあ

らゆる市民が学習や教育の機会を等しく得られ、様々な手段・方法を活用した継続的かつ効果的な啓発事業を検討されたい。

また、諸事業については、重点化と課題を明確化したうえで実施し、効果について検証されたい。

3 DV防止及び相談支援体制について

コロナ禍で先行きの不透明感が広くいきわたっていると思われる。ストレスのかかる状況がしばらく続くことから、DV防止や子育てなどの支援とその広報の強化を図られたい。また、行政と民間を含めた各関係機関との相互支援体制の整備は今後の重要な課題として取り組まれたい。